

東京湾の外来海洋生物：その生態と過去、現在、未来



日本では、海外からやってきた外来の海洋生物が75種以上見つかっています。その半数は、船によって運ばれてきたもので、その外来海洋生物が日本で初めて発見された場所は、東京湾や大阪湾などの、大きな国際港が位置している場所の近くに集中しています。こうした場所に定着した外来海洋生物の多くは、まず、西へと分布を広げ、次に、日本海側や東北地方、北海道へと北上していく傾向があるようです。



東京湾は外来海洋生物の「ホットスポット」で、過去にチチュウカイミドリガニ、シマメノウフネガイ、ホンビノスガイなど、日本で最も多くの外来海洋生物が初めて発見された場所です。この東京湾が分布拡大の中心地となって全国に広がっていったと思われる種も数多く存在します。湾奥部の海岸に生息する大型のベントス（底生生物）は、現在では外来生物だけといっても良いほどの「多国籍生物群集」ができあがっています。東京湾の外来海洋生物の過去と現在を知ることは、日本の海岸生物相の将来を予測することにもつながるでしょう。

そこで、今回は、東京湾の外来生物の生態とその分布拡大予報、外来生物相の変化などにスポットを当てて勉強会を開きます。また、日本では、狭い面積で最も多くの外来海洋生物が観察できる京浜運河（品川区）で観察会を行い、1975年から長期の定点観察を続けて来られた方のお話も伺います。

海岸の外来生物の生態や分布や分布拡大予報に興味を持っておられる個人、団体、研究者や行政関係者の方は、是非、ご参加ください。

2009年 7月25日（土）東京海洋大学 海洋科学部 品川キャンパス

2号館2階セミナー室

〒108-8477東京都港区港南4-5-7

JR品川駅・港南口（東口）から東に歩いて約10分

<プログラム>

◎午前10時開始

- ・趣旨説明
- ・日本の外来海洋生物：現状と将来 岩崎敬二・奈良大学
- ・チチュウカイミドリガニの生態 土井 航・東京海洋大学
- ・チチュウカイミドリガニの分布拡大予報 小池文人・横浜国立大学 & 岩崎敬二・奈良大学
- ・京浜運河の外来貝類：1975年からの長期定点観察の結果 青野良平・日本貝類学会会員

◎午後1時～午後3時 京浜運河大井北埠頭橋付近にて現地見学

案内者：青野良平・日本貝類学会会員

主催：外来生物分布拡大予報研究会

横浜国立大学 グルーパルCOE「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」



申し込み：定員30名 無料

氏名、連絡先、所属団体（もしあれば）などの情報を添えて下記までお申し込みください。

小池文人、〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-7 横浜国立大学環境情報研究院

Fax・電話 045-339-4356 koikef@ynu.ac.jp

お知らせホームページ（外来生物分布拡大予報研究会）<http://vege1.kan.ynu.ac.jp/forecast/>

今後の勉強会の予定：第4回以降 フロリダマミズヨコエビ、外来カワリヌマエビ（ミナミヌマエビ）、台湾シジミ など